空気と水で 痛み少なく

歯周病治療 歯垢除去に新手法

歯を支える土台が壊れる歯周病は、糖尿病を悪化させるなど他の病気との関係も指摘されています。予防と早期の治療には、原因となる細菌の塊「プラーク」（歯垢）の除去が重要になります。歯科医院では、空気や水の力で取り除く「エアーポリッシング」が、従来より患者の負担を軽くできるため、普及し始めています。（鈴木敦秋）

成人の7割患う

歯周病は、細菌感染で歯肉が炎症を起こし、進行すると歯を支える骨（歯槽骨）が壊されていく病気です。日本では成人の約7割が患っており、歯を失う原因の第1位になっています。プラークがその元凶です。

プラークは乳白色をした膜状をしており、1㎟・㎜（1000分の1㎜）中に、約1億個の歯周病菌などの細菌が潜んでいます。歯に付着して歯肉に炎症を起こします。プラークを放置して石灰化すると歯石になります。歯石の表面はでこぼこしているため、さらにプラークが付着します。歯肉と歯の間にできた隙間「ポケット」周辺の歯肉の炎症を悪化させ、歯槽骨を壊していきます。

歯周病の治療とその後のケアでは、歯の表面やポケット内のプラークや歯石の除去が基本になります。歯科医院では、プラークを、先端にブラシやカップ状の器具を装着した回転式器械と研磨剤で除去します。歯石は先端が超音波振動する超音波スケーラーなどを使って剥ぎ取ります。

ただし、①歯の表面を削り過ぎてしまう②ポケットの中に器具が届かない部分がある③器具の接触による刺激や痛みを伴う――といった課題もありました。

パウダーを噴射

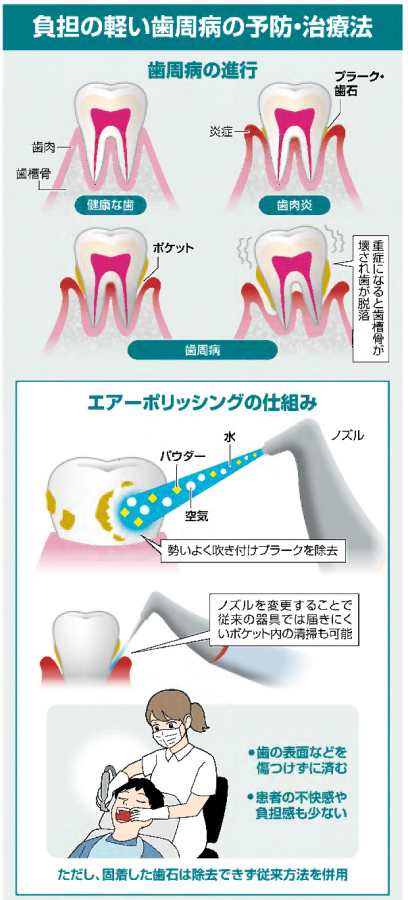
最近、注目されているエアーポリッシングは、水と空気に混ぜたパウダーをノズルから歯の表面に向けて噴射させ、プラークを除去します。パウダーの大きさは一般の研磨剤より細かいため、刺激が少ないうえ、歯を必要以上に傷付けない利点があります。

従来の方法では器具が届きにくいポケット内もノズルの形状を変えることで清掃できます。エアーポリッシング機器メーカー大手の日本法人「EMS Japan」（東京都）によると、9㎜までの深さのポケット内にたまったプラークを除去できるほか、処置を受けた患者の痛みや出血、不快感が少ないとする研究報告も出ています。

「歯肉の下の部分の歯の表面はやわらかく、傷から虫歯になる可能性があるので、なるべく治療時に必要以上に傷つけないことが大切です」と、日本歯科大教授の沼部幸博さん（歯周病学）は解説します。ただし、歯石はエアーポリッシングでは取り除けないため、従来の方法を併用します。

歯周病治療後の状態維持のために行われる定期的治療は、通常15～30分かかります。保険診療となる場合、1回の自己負担は3000円程度です。自費診療による歯の清掃や定期健診などでも広がりつつあります。

TOKYO歯周&矯正クリニック（東京都）では、3歳の子どもから90歳代の高齢者までがエアーポリッシングで処置を受けています。同クリニックの歯科衛生士、立川真由美さんは、痛みや出血が少ないため、歯科嫌いの人でも治療の継続につながっています」と話しています。



作図 デザイン部 池田祭